



Historic Monuments of Ancient Kyoto (Kyoto, Uji and Otsu Cities)

古都京都の文化財

日本国 文化遺産/1994年登録
登録基準/(ii)(iv)

歴史と文化が息づく千年の都

日本西部の京都市、宇治市（ともに京都府）、大津市（滋賀県）に点在する古都京都の文化財は、8世紀から17世紀にかけて建てられた17件の寺社、城の総称である。

京都は、794（延暦13）年に桓武天皇が平安京を都に定めてから1869（明治2）年の東京遷都まで、1,000年以上にわたって日本の首都だった地であり、政治・経済・文化の中心として栄えた都である。平安から江戸までの各時代を代表する文化財が数多く残され、今も日本の伝統を継承する文化の中核となっている。東山、西山、北山という山々に囲まれ、豊かな自然と調和した歴史ある都市構造は、後に各地に生まれた「小京都」と呼ばれる町のモデルにもなった。

平安遷都から1,200年目にあたる1994（平成6）年に世界遺産に登録された17件の建造物は、京都の歴史と特に関係が深く、日本独自の伝統美を象徴しているものばかりである。38の国宝、160の重要文化財とともに、8件の特別名勝の庭園が含まれており、なかでも長い歴史のなかで多くの戦災や天災に見舞われ、焼失と再建を繰り返しながらも、創建当初に近い形で再現・保存されている木造建築物への評価は高い。また、平安時代以降に発展し、仏教世界を表象した浄土式庭園や、室町時代に登場した**枯山水**の庭園設計は、



秋色に染まる清水寺

●枯山水 池や流水を使わず、砂や石だけで山水の風景を表現する庭園様式。

19世紀以降、海外にも影響を与えている。

現在、17件の登録物件と同等の文化財価値をもつと考えられている知恩院、大徳寺、京都御所、桂離宮といった建造物や嵯峨嵐山の一帯、また京都祇園祭の山鉾行事などの追加登録が計画されている。

古都京都の文化財の登録物件

賀茂別雷神社（上賀茂神社）
賀茂別雷神を祭神とし、7世紀末の創建。1863（文久3）年に造替された本殿および権殿はともに国宝で、**三間社流造り**と呼ばれる神殿形式を今に伝える。聖域とされる「**神山**」を含む一帯が世界遺産に登録された。

賀茂御祖神社（下鴨神社）
賀茂建角身命と玉依日売命を祭神とし、7世紀末の創建。創建当時の三間社流造りを今に伝える1863（文久3）年造替の東本殿、西本殿はともに国宝である。また、境内の大半を占める「**糺の森**」は、古来から神域とされ、今も原生樹林の植生を残している。賀茂別雷神社とともに、京都三大祭のひとつ・葵祭を祭礼とする。

教王護国寺（東寺）
796（延暦15）年に創建され、823（弘仁14）年に真言宗の開祖・空海に与えられた寺院。多くの建物は幾度か焼失しているものの、再建にあたっては創建当時の姿がほぼ復元された。木造建築では日本最大の高さを誇る約55mの五重塔は、京都のシンボル。20件もの国宝を所蔵する密教美術の宝庫でもある。

清水寺
「清水の舞台」で有名な本堂は、798（延暦17）年、平安時代の武官・坂上田村麻呂の建立と伝えられ、**懸造り**と呼ばれる工法が用いられている。幾度も火災に遭っており、現在見られる建物の多くは江戸幕府3代将軍・徳川家光によって再建された。

延暦寺
785（延暦4）年に日本の天台宗の開祖・最澄が建てた草庵を起源とする天台宗の総本山。境内は京都府と滋賀県にまたがる比叡山全体におよぶ。1571（元龜2）年、織田信長の焼き打ちによりほぼ全焼し、現在ある大小約200の堂塔の多くは16世紀以降に再建された。

醍醐寺
907（延喜7）年、醍醐天皇の意向で伽藍が整備された京都屈指の大寺院。ほぼ創建当時の姿を残す京都最古の五重塔は国宝。1598（慶長3）年、豊臣秀吉が「醍醐の花見」を催した場所としても有名である。

仁和寺
888（仁和4）年に宇多天皇が完成させた寺院。退位後、宇多天皇が自ら住職を務めたこともあって、皇室とゆかりが深い。応仁の乱により火災に遭ったが、当時の御所から建物を移築して再興された。

平等院
藤原氏ゆかりの寺院で、関白・藤原頼通によって1052（永承7）年に建立された。極楽浄土を表した阿彌陀堂（鳳凰堂）は国宝に指定されており、日本の硬貨、紙幣のデザインに用いられている。

●三間社流造り 正面の屋根を前方に延ばす神社の建築形式を流造りといい、社殿が3間の幅をもつ場合三間社流造りと呼ばれる。●懸造り くぎを使わず、斜面に建物をつくる工法。舞台造とも呼ばれる。●藤原頼通 992～1074 藤原道長の息子。